
恋詩

北山アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋詩

【著者名】

北山アキ

Z0826D

【あらすじ】

命とは……こんなにも軽いもの……？　違う。……優真……。

第1話

200X年4月。私はある公立高校に合格した。今日はその入学式。

「亜紀。遅れるよ。」

「はいお母さん。」

まだ新しい制服に着替え食卓につく。

「今日はいよいよ入学式ね」

「…うん。」

中3の時まで不登校だった私は、やっとの思いで公立高校に合格した。ほんとは行きたくなかったけど…。

そろそろ時間。

「行ってきます。」

「いつてらっしゃい。」

みんな友達と一緒に来ているのか複数人数だ。しかし友達のいない私。一人で学校へと向かつた。

私が行く高校へは家から30分。各学年4クラスある。私は1年2組だった。

教室に入ると見慣れない人達が集まっていた。席につく。しかし誰から話しかけていいのか分からない。ふと隣りを見た。すると一人の男子がいた。誰とも喋らず下を向いている。私はその男子に近寄つた。

「おはよう。はじめまして。富野亜紀です。よろしく。」

その男子は静かに

「…………花崎優真です……よろしく…………。」

「あの……中学どこだったの?私は西中だよ。」

「…………東中…………。」

「そ……そ……う。」

少し話辛い。席に戻る。

「はじめまして。」

誰かが私に声を掛けた。

「ああ……はじめまして。」

「私東中から来た音原琴音。あの花崎優真ってやつ暗いじやひむ。
近付かない方がいいよ？」

「えつ……？」

嫌われてるんだ……花崎優真って子。まあ……私も似たような性格だからすぐ嫌われるだらうな……。と私は予想していた。
が、現実は少し違った。私に友達はやっぱり出来なかつた。しかしいじめに会わなかつた。しかし……

「おい！花崎！消えろや！」

そう……花崎くんがいじめられる様になつてしまつた。みんなで寄つてたかつて消えろの合唱、ひどい……。

花崎くんの目から涙が溢れる。が、いじめる側はもつとはやし立てる。

「弱虫！精神鍛えろや！」

と……。

次の時間は体育だつた。みんなが花崎くんから離れ、教室には私と花崎くんの2人きりになつた。

「…………行かないの……？」

「えつ……？」

花崎くんが涙を溜めた目で私を見ながら言つた。

「……うん。保健室行くから。……花崎くんも……一緒に行く？」

「…………うん……。」

私達2人は一緒に保健室へと向かつて歩いて歩いていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0826d/>

恋詩

2010年12月15日02時42分発行